

第113回 北海道整形外科外傷研究会

平成18年 2月25日 札幌市教育文化会館
出席者 118名

主題：骨盤骨折

会長 市立札幌病院 佐久間 隆

常々、骨折治療で最も難しい部位は骨盤であると思っていたので会長に指名された時、迷わず骨盤骨折を主題とした。20年以上前、骨盤骨折に関しては **Malgaigne** 骨折の言葉しか知らなかったし、骨盤骨折の搬入時にはキャンバス牽引、出血性ショックの可能性があるのでまず輸血を用意、その後、少し進歩した治療が創外固定であった。当時は **Judet** や **Letournel** を始めとしたフランス学派が積極的に骨盤環を解剖学的整復をしていて、国内では弓削大四郎先生がそれを紹介してはいたが、一般整形外科医にとって骨盤は“**No man's land**”であった印象がある。しかし、社会環境の変化につれ、**High energy injury** による重症の骨盤骨折の件数が増え、さらに、救急医学の進歩と普及により骨盤骨折が救命され、整形外科医が治療する機会が増えたと思う。同時に骨盤用の種々の骨折治療器械の開発が進み、治療も積極的になった。

外傷、骨折治療に携わる整形外科医は骨盤骨折の適切な治療ができることが望ましいと考え、ここ数年、外傷整形外科、骨盤骨折のセミナーでは定番の講師である新藤正輝先生に来ていただいた。予め『**rough** な知識を整理し、地方病院でも骨盤骨折の適切な診断と初期治療ができるための基礎的な講義を』とお願いしていた。単純 X 線像、CT の読み方、分類、初期治療、種々の観血的骨接合術などについてわかりやすく解説して下さった。主題には5題の発表があった。苦労した症例の提示や、最近、積極的に行われるようになった解剖学的整復術の発表がなされた。実際に寛骨臼や仙腸関節脱臼骨折の手術経験を持つ参加者が熱心にディスカッションしていたが、皆、本骨折の治療では苦労をしていることがうかがわれた。周囲が聞いていて理解しにくい面もあったかと思う。しかし、骨盤骨折を積極的に手術する整形外科医が道内でも徐々に育ってきたことが確認できた。これを機会に、道内の外傷整形外科のレベルが一層向上することを期待する。